平成 27 年の全数把握対象疾患

平成 27 年までの全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核が 306 例の届出があり、昨年とほぼ同様であった。類型は、患者 228 例、感染死亡者の死体 1 例、疑似症患者 6 例、無症状病原体保有者 71 例であった。患者の病型は、肺結核が 165 例、その他の結核(結核性胸膜炎、リンパ節結核、粟粒結核、結核性髄膜炎等)が 50 例、肺結核及びその他の結核が 13 例であった。全届出例の年齢階層は、0 歳代 10 例、1～10 歳未満 3 例、10 歳代 7 例、20 歳代 15 例、30 歳代 18 例、40 歳代 24 例、50 歳代 23 例、60 歳代 36 例、70 歳代 63 例、80 歳代 78 例、90 歳代 28 例、100 歳代 1 例で、80 歳代が最も多く、70 歳以上が全体の 50%を占めていた(別添 1)。

3. 三類感染症

細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 27 例、腸チフス 1 例、パラチフス 1 例の届出があった。

細菌性赤痢は 82 歳の女性で、菌種は *S. flexneri*(B 群)、推定感染地域は奈良県であった。

腸管出血性大腸菌感染症は、昨年よりわずかに増加した。類型は、患者 19 例、無症状病原体保有者が 8 例で、その年齢階層は、10 歳未満が 5 例、10 歳代が 3 例、20 歳代 4 例、30 歳代 6 例、40 歳代 1 例、50 歳代 2 例、60 歳代 4 例、70 歳代 2 例で、昨年に比べると 30 歳代以上の成人層で増加している。血清型・検出病原体は、O157 が 19 例(VT1&VT2 が 16 例、VT2 が 3 例)、O26 が 2 例(VT1&VT2 が 1 例、VT1 が 1 例)、O121 が 3 例(VT2 が 3 例)、O165 が 2 例(VT1&VT2 が 1 例、VT2 が 1 例)、O145 が 1 例(VT2 が 1 例)であった。感染経路としては、推定ではあるが経口感染が 13 例、接触感染が 4 例、不明が 10 例であった。経口感染が推定されているものには肉類の喫食歴の記載があるものが 4 例、生肉の喫食に関する記載は無かった(別添 2)。

腸チフスは、県外在住の 20 歳の外国人男性で、ネパールでの感染により保菌していたと推定されている。所在地の自治体に通報後の詳細は不明である。

パラチフスは本県では 2007 年以来の届出であった。患者は 43 歳女性で、ファージ型は不明で、フィリピンでの感染により保菌していたと推定されている。

4. 四類感染症

E型肝炎 2 例、A型肝炎 2 例、デング熱 4 例、日本脳炎 1 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 8 例の届出があった。

E型肝炎も 2007 年以来の届出であった。6 月に届出があった 73 歳女性は、豚レバー(加熱調理済み)を喫食していた。9 月に届出があった 63 歳男性は、届出の約 2 ヶ月前に北海道で鹿肉を喫食していた。

A型肝炎は、2 例届出があった。2 月に届出があった 56 歳男性は、大阪府での飲水が感染経路と推定されている。12 月に届出のあった 66 歳男性は、届出の約 1 ヶ月前の地中海方面への渡航歴があった。

デング熱は 3 月・6 月・7 月・11 月に 1 例ずつ計 4 例届出があった。全て海外感染事例である。3 月に届出があった 34 歳男性はインドネシアのスマトラ島、6 月の 41 歳男性はインドネシアのジャカルタ・ブカシ、7 月の 53 歳男性は、マレーシアのクアラルンプール、11 月の 35 歳男性は、インドのベレナス、デリー、アグラーが推定感染地域とされている。 4 例とも病型はデング熱であったが、3 月の 34 歳男性は、日本に居住している外国人で、インドネシアに一時帰国したとされており、血小板が減少していた。他の 3 例には、血小板減少の記載は無かった。6 月以降の届出例には遺伝子検査が実施され、全てデング 2 型であった。

日本脳炎は、2006 年以降としては初めての届出であった。10 月に届出された奈良市保健所管内の 86 歳男性で、発熱、頭痛、項部硬直、意識障害を呈していた。山間部に居住し、農作業に従事しているため、日常的に蚊に刺されるとのことであった。

マラリアは、5 月に 70 歳女性、9 月に 57 歳男性の届出があった。病型は 2 例とも熱帯熱で、推定感染地域は、70 歳女性はウガンダ共和国、57 歳男性はモザンビークのペンバとされている。

レジオネラ症 8 例の病型は全て肺炎型で、男性が 6 例(50 歳代1例、70 歳代 4 例、90 歳代 1 例)、女性が 2 例(50 歳代 1 例、80 歳代 2 例)となっている。推定感染経路は水系感染が 2 例、塵埃感染が 1 例、不明が 5 例となっている。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢 18 例、ウイルス性肝炎 2 例、カルバペネム耐性腸内細菌感染症 28 例、急性脳炎 4 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 例、後天性免疫不全症候群 14 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 例、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 21 例、水痘(入院例)6 例、梅毒 19 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風しん 1 例、麻しん 1 例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症 17 例、腸管外アメーバ症 1 例であった。患者は全て男性で、年齢階層は、20 歳代 1 例、30 歳代 1 例、40 歳代が 1 例、50 歳代が 9 例、60 歳代 5 例、70 歳代 1 例であった。感染原因は推定であるが、経口感染が 3 例、性的接触 7 例(経口感染と重複)、不明 9 例であった。推定感染地域は国外が 2 例あった。

ウイルス性肝炎 2 例はともに B 型肝炎で、45 歳及び 40 歳男性であった。5 月に届出のあった 45 歳男性は遺伝子型 B 型で推定感染経路は不明、9 月に届出のあった 40 歳男性は遺伝子型 C 型で推定感染経路は性的接触であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 19 例(20 歳代 1 例、40 歳代 1 例、60 歳代 1 例、70 歳代 9 例、80 歳代 6 例、90 歳代 1 例)、女性 9 例(40 歳代 1 例、50 歳代 1 例、80 歳代 5 例、90 歳代 2 例)で、全国での状況と同様に 60 歳以上が多く全体の 85.7%を占めた。病原体検出部位としては、血液 6 例、胆汁 1 例、創部リンパ液 1 例、尿 11 例、喀痰 6 例、その

他 3 例で、推定感染経路は以前からの保菌が 7 例、中心静脈カテーテルからが 2 例、尿路カテーテルからが 4 例、胆管(胆嚢)ドレナージチューブ 1 例、手術部位 1 例、その他不明等が 13 例であった。検出された菌種は、血液からの検出では、*Enterobacter aerogenes* が 2 例、*E.coli*、*Enterobacter cloacae*、*Seratia marcescens*、*Klebsiella pneumoniae* が 1 例ずつ、胆汁、創部リンパ液からがともに *E.coli*、尿からが *E.coli* が 6 例、*Klebsiella pneumoniae* が 2 例、*Enterobacter aerogenes*、*Serratia marcescens*、*Escherichia* 属菌が 1 例ずつ、喀痰からの検出では *E.coli* が 2 例、*Enterobacter aerogenes*、*Enterobacter cloacae* complex、*Klebsiella pneumonia* が 1 例ずつ、その他からは *Enterobacter cloacae* が 2 例、*Klebsiella oxytoca* が 1 例の記載があった。

急性脳炎は、4 月に 3 歳女児、7 月に 16 歳女性及び 30 歳男性、8 月に 75 歳女性の届出があった。原因病原体は、4 月の 3 歳女児がロタウイルス、7 月の届出例はともに不明、8 月の 75 歳女性は、ヒトヘルペスウイルス 1 型(単純ヘルペス 1 型)疑いとされている。7 月に届出があった 16 歳女性については、平成 25 年 11 月 22 日付け事務連絡(厚生労働省健康局結核感染症課)に基づき、「日本脳炎ならびに予防接種後を含む急性脳炎・脳症の実態・病因解明に関する研究班」に原因病原体の詳細な検索を依頼した。結果、病原体は検出されなかったが、後日、軽快していると医療機関から情報提供があった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は、2 月に 75 歳女性、5 月に 75 歳男性の届出があった。それぞれの病型は、医原性(疑い)及び古典型(ほぼ確実)で、医原性の 75 歳女性は、1985 年に使用されたヒト乾燥硬膜が感染経路として推定されている。また、古典型とされている 75 歳男性は、2013 年の初診時に進行性認知症を呈していた。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症については、2 月に届出されたのは、82 歳男性で血清群は A 型、6 月に届出されたのは、85 歳女性で血清型は G 群で、感染経路はともに創傷感染(左手背創傷、白癬症の疑い)と推定されていた。

後天性免疫不全症候群 14 例の病型は、AIDS 4 例、無症候性キャリア 10 例であった。男性が 25 歳、28 歳 2 例、31 歳、35 歳 2 例、39 歳、42 歳、54 歳、55 歳、60 歳 2 例、64 歳の 13 例で、女性が 34 歳の 1 例であった。推定感染地は国内 12 例、国外(タイ)1 例、不明 1 例であった。推定感染原因・感染経路は、男性では性的接触 10 例(同性間 9 例、両性間 1 例)、静注薬物使用 1 例(両性間性的接触と重複)、不明 3 例で、女性が異性間性的接触 1 例であった。あった。AIDS と診断した指標疾患は、ニューモシスティス肺炎 2 例(42 歳、54 歳)、HIV 脳症 1 例(28 歳)、カンジダ症 1 例(60 歳)であった。この HIV 脳症を発症している男性は、国籍が不明とされている(別添 3)。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、3 月に 78 歳女性、5 月に 87 歳女性、10 月に 10 ヶ月男児の届出があった。血清型は、10 ヶ月男児が f 型が髄液から検出されており、他の 2 例は不明であった。10 ヶ月男児にはヒブワクチン接種歴が 3 回有った。78 歳女性は接種歴不明、87 歳女性には、ワクチン接種歴は無かった。推定感染経路は、78 歳女性が不明、10 ヶ月男児が接触感染、87 歳女性が飛沫・飛沫核感染とされている。なお、平成 27 年度分担研究「奈良県に

おける成人の侵襲性肺炎球菌感染症及び侵襲性インフルエンザ菌感染症サーベイランスシステムに関する研究」により、成人患者から分離されたインフルエンザ菌 2 株について莢膜血清型の同定が行われ、2 株とも non-typable であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症 1 例は、8 月に届出のあった 19 歳大学生男性であった。この届出の直前に、世界スカウトジャンボリー（山口県）に関連したスコットランド隊員およびスウェーデン隊員の髄膜炎菌感染症事例が発生しており、関連も調査されたが、本事例については関連がみられなかった。渡航歴もなく、同居家族・友人等にも同症状者はなく、感染源不明とされている。

侵襲性肺炎球菌感染症は、昨年と横ばいの届出数であった。男性 17 例、女性 4 例で、1 歳代、20 歳代及び 30 歳代がそれぞれ 1 例、40 歳代 4 例、60 歳代及び 70 歳代がそれぞれ 4 例、80 歳代 5 例、90 歳代 1 例であった。1 歳代の男児はワクチン接種が 4 回終了していたが敗血症を呈していた。21 例のうち、ワクチン接種歴のあるのがこの 1 代男児以外に、36 歳男性、68 歳男性で、接種歴無し 12 例、不明 6 例であった。なお、インフルエンザ菌と同様に、成人患者から分離された肺炎球菌 19 株について血清型の同定が行われ、13 血清型に分類された。内訳は、高齢者対象の定期接種で使用される 23 価肺炎球菌ワクチン（PPSV23）に含まれる血清型 5 種類（3、10A、18C、19A、22F）が 10 株から、含まれない血清型 8 種類（15A、16F、23A、24F、34、35B、37、38）が 9 株で、PPSV23 のカバー率は 52.6%とされている。

水痘（入院例に限る）6 例の病型は臨床診断例 4 例、検査診断例 2 例で、性別及び年齢は、男性が 9 歳、18 歳、34 歳、56 歳、73 歳の 5 例、女性が 27 歳の 1 例であった。ワクチン接種歴については、9 歳については記載が無く、これを除いた 5 例はワクチン接種歴は不明であった。推定感染経路は接触感染が 3 例、院内感染が 1 例、不明 2 例であった。

梅毒は 19 例届出があった。昨年、平成 26 年に急増したが、それを上回った。平成 26 年に全国的にも梅毒の届出が増加し、当初は特に男性同性愛者の中で HIV 感染症および梅毒の流行がみられていたが、徐々に女性も拡大している。本県でも、男性 13 例、女性 6 例と男性が多く、ともに昨年より増加した。患者の年齢層は、男性 19 歳、31 歳、39 歳、42 歳、43 歳、43 歳、51 歳、55 歳、60 歳、64 歳、68 歳、81 歳、83 歳の 13 例、女性が 21 歳、27 歳、28 歳、42 歳、44 歳、79 歳の 6 例で、患者の病型は、早期顕症梅毒 13 例（Ⅰ期 3 例、Ⅱ期 10 例）、無症候（無症状病原体保有者）6 例であった。感染経路は性的接触が 15 例（同性間 4 例、異性間 8 例、両性間 1 例、不明 2 例）、静注薬物常用による注射器の使い回し 1 例（両性間性的接触と重複）、不明 4 例となっている。推定感染地は、奈良県 11 例、奈良県以外（都道府県不明を含む。）5 例、国外（タイ）1 例、不明 2 例であった。なお、静注薬物使用の 42 歳男性の症例は、AIDS と重複している。平成 26 年以来急増しており、特に男性では 20～30 歳代、女性では 20 歳代の増加が著しい。平成 27 年は、男性では、その 20～30 歳代が少ないにもかかわらず、40 歳代以上が増加したため、総数として増加している。なお、平成 28 年 28 週時点で、すでに前年の届出数を上回っており、今後の対策が急務と思われる（別添 4）。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、平成 22 年以来の届出であった。患者は 11 月に届出

のあった 77 歳の男性で、肺炎を呈しており、菌種は、喀痰から検出された *Enterococcus faecium* であった。感染経路や感染地域は不明であった。

風しんは 11 月に届出のあった 11 歳男性の 1 例であった。病型は臨床診断例で、ワクチン接種歴は 2 回(1 歳時、5 歳時)あった。発病 10 日後に採取された検体(咽頭ぬぐい及び尿)について保健研究センターで遺伝子検査が実施され、陰性であったが、臨床診断例として届出された。

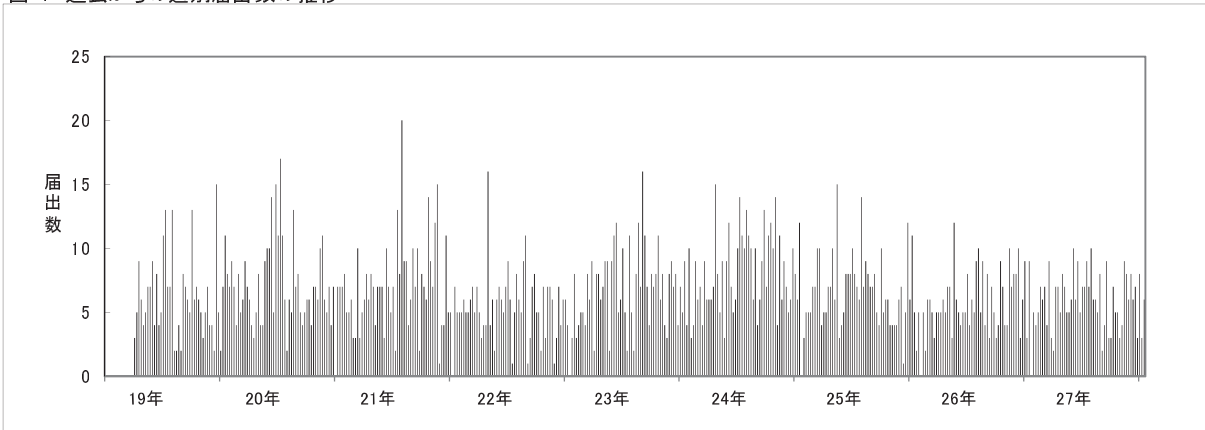
麻しんは、昨年に引き続き届出があった。麻しんは平成 27 年 3 月 27 日に WHO 西太平洋地域事務局(WHO Western Pacific Regional Office:WPRO)より、日本が麻しんの排除状態＊にあることが認定された(＊質の高いサーベイランスのもとで、 特定の地域や国において、 地域的な伝播が12カ月以上にわたり起こっていない状態)。日本では、排除達成・維持のために、「麻しんに関する特定感染症予防指針(平成 19 年 21 月 28 日告示)」を定めており、麻しんと診断した医師には、臨床診断をした時点で直ちに臨床診断例として届出を行うとともに、血清抗体価の測定の実施及び地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の実施のための検体の提出を求めている。また都道府県に対しては、地方衛生研究所において、原則として全例にウイルス遺伝子検査等を実施するとともに、麻しんウイルスが検出された場合は、可能な限り、麻しんウイルスの遺伝子配列の解析を実施することが求められている。このことから、麻しん患者発生について学校欠席者情報収集システム等から情報収集し、検査部門に情報共有するとともに、管轄保健所と連携して、全ての患者の検体確保に努めている。

7 月に届出のあった患者は 36 歳男性で、モンゴルからの帰国者であった。麻しんと診断した医師の協力もあり、診断翌日の 17 日には検体が提供され、保健研究センターで検査の結果、搬入当日に陽性と判定された。その後、遺伝子型及び塩基配列の確定検査も実施され、H1 型と判明した。モンゴルは、日本の前年に排除認定されていたが、中国で流行する H1 型の輸入例が多く、モンゴルで検出されている遺伝子型も H1 型であり、本症例もモンゴルからの輸入例と考えられている。本症例について、主治医から ProMED-mail (**3596054**、2015-08-22)に情報提供され、また管轄の保健所長から IASR(**37**、64-65、2015)に情報提供された。

結核

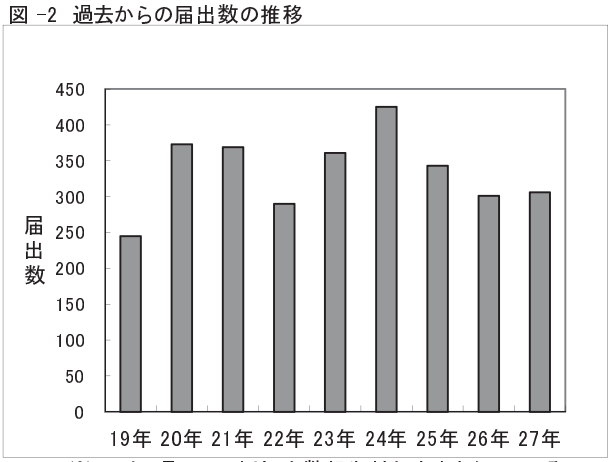
（別添1）

図-1　過去からの週別届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図 -2　過去からの届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図 -5　週別届出数

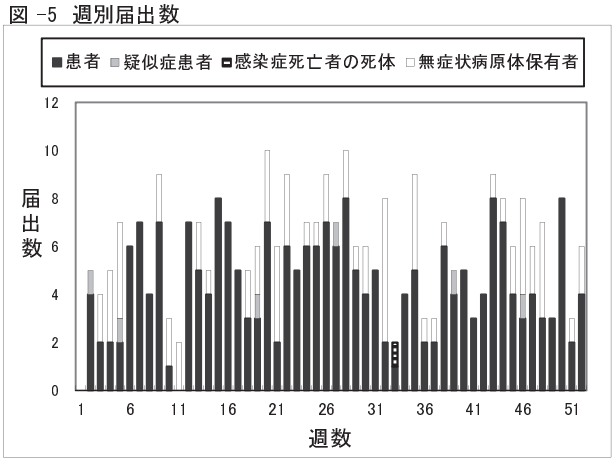


図 -3　年齢別届出数

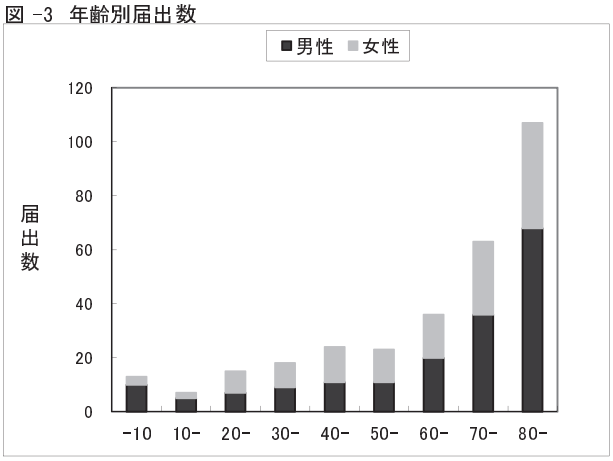


図 -6　病型別

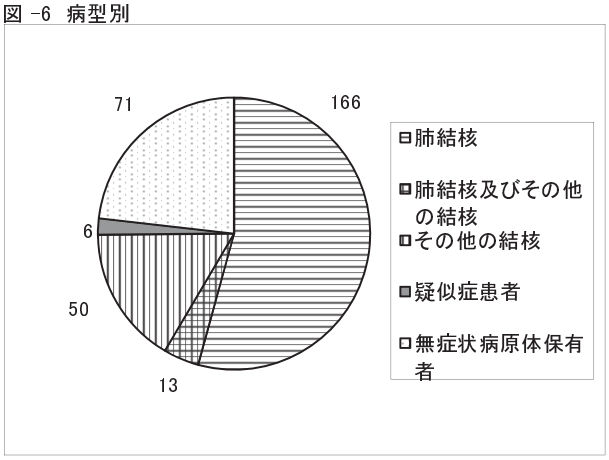
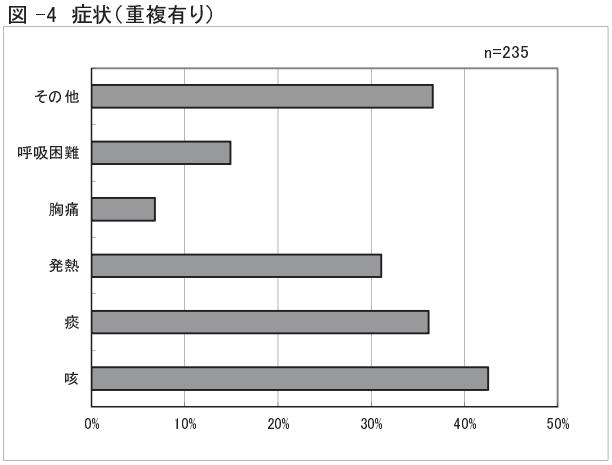


図 -4　症状（重複有り）



その他

感染地域（推定含む）
　県内：228例
　国内（県外・不詳）：74例
　海外：4例

腸管出血性大腸菌感染症

（別添2）

図-1　過去からの週別届出数の推移

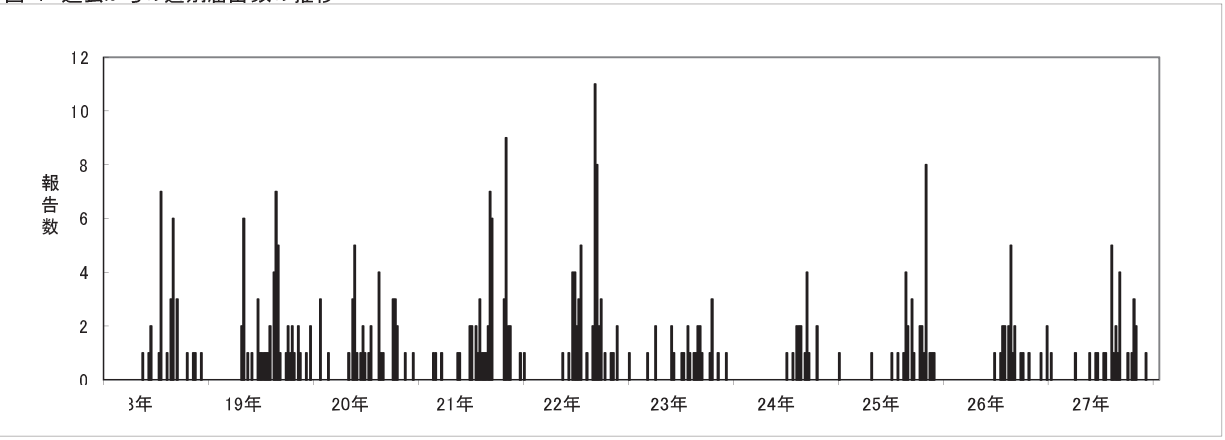


図 -2　過去からの届出数の推移

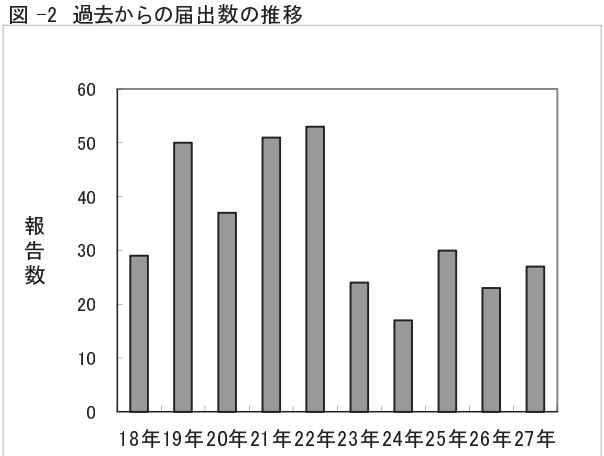


図 -5　週別届出数

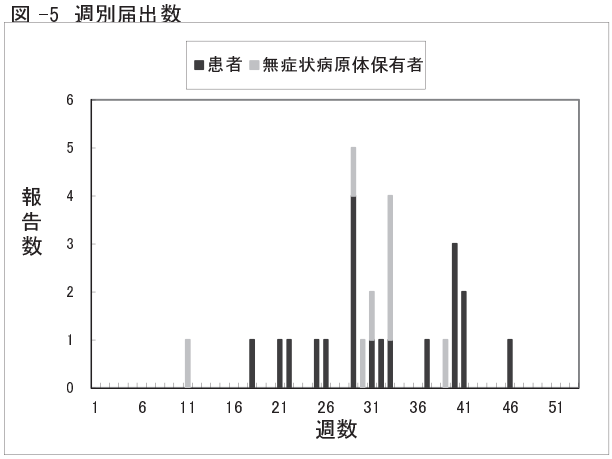


図 -3　年齢別届出数

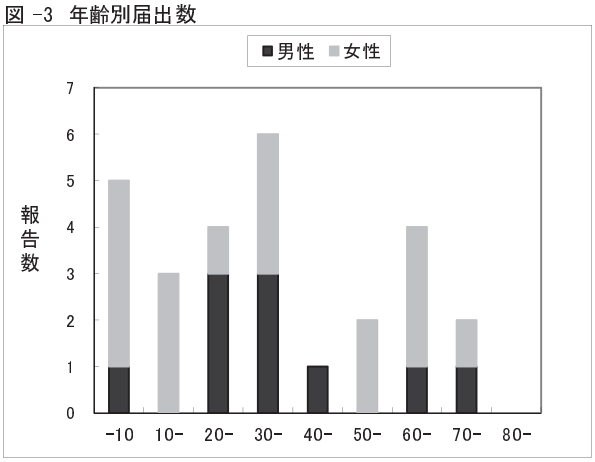


図 -6　血清型別患者報告数

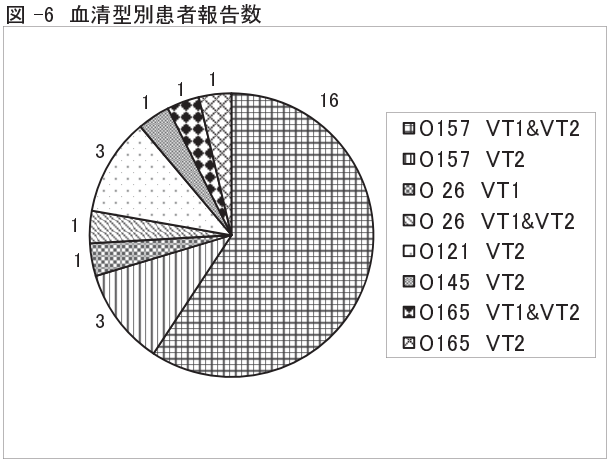
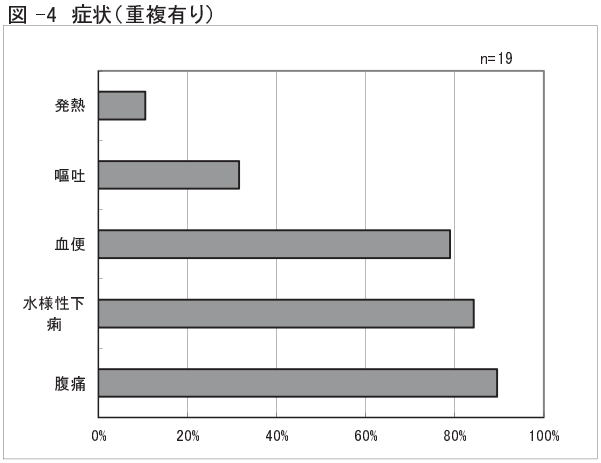


図 -4　症状（重複有り）



その他

感染地域（推定を含む）
　県内　20例
　県外　 2例
　不明　 4例
　国外　 1例

感染経路（推定含む）
　経口感染　13例(うち4名に焼き肉関連(レバー)あり
　接触感染　 4例
　不明　　 10例

後天性免疫不全症候群

（別添3）

図 -1　過去からの週別報告数の推移

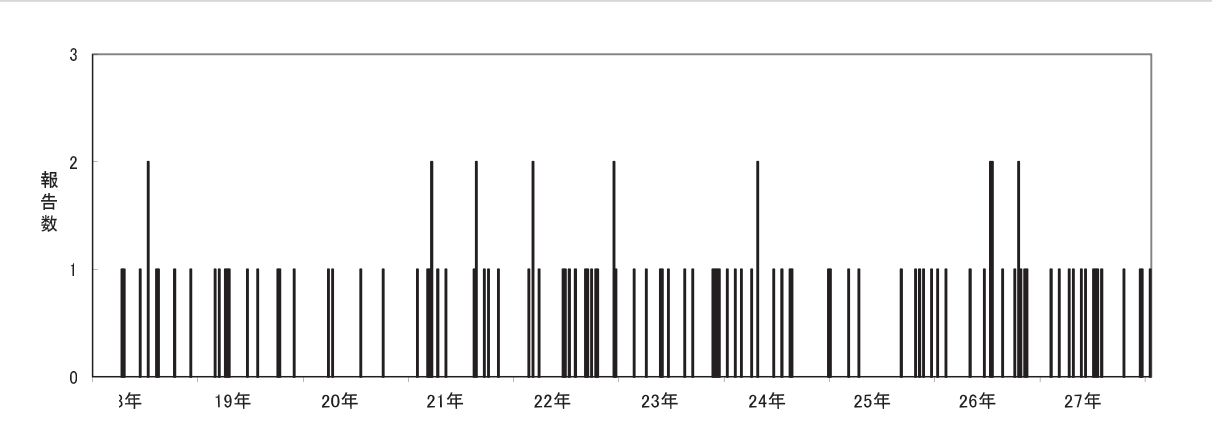


図 -2　過去からの届出数の推移

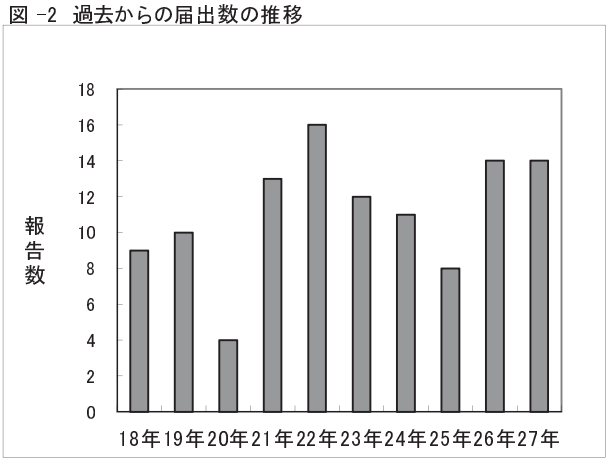


図 -5　週別届出数

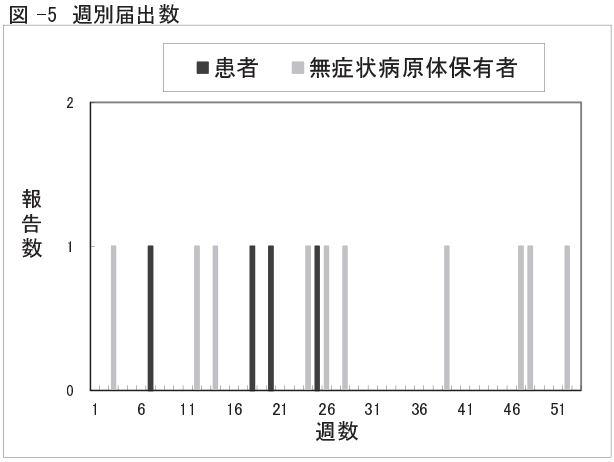


図 -3　年齢別届出数

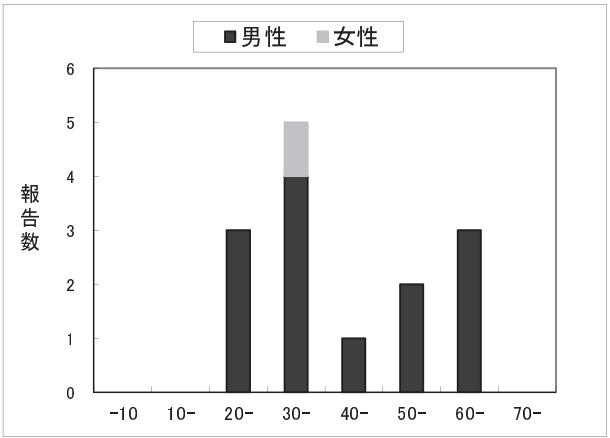


図 -6　病型別

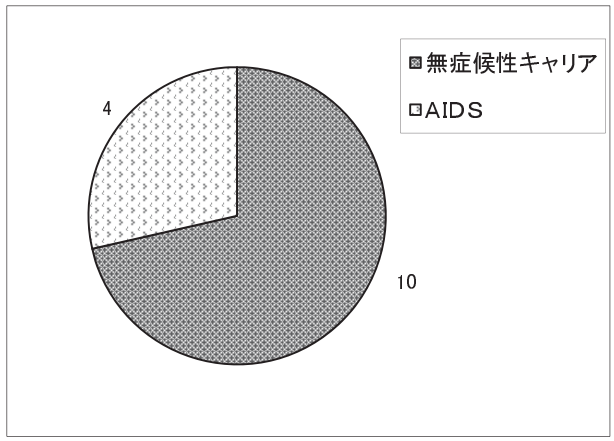
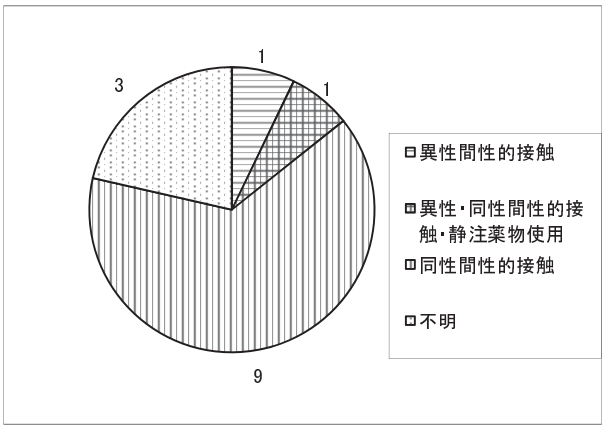


図 -4　感染経路



概要

感染地域（推定含む）
　国内　12例
　国外（タイ）1例
　不明　　1例

異性・同性間性的接触・静注薬物使用の1例は、梅毒にも登録有り

AIDSと診断した指標疾患(n=4)
　ニューモシスティス肺炎：2
　カンジダ症：1
　HIV脳症：1

梅毒

（別添4）

図 -1　過去からの週別報告数の推移

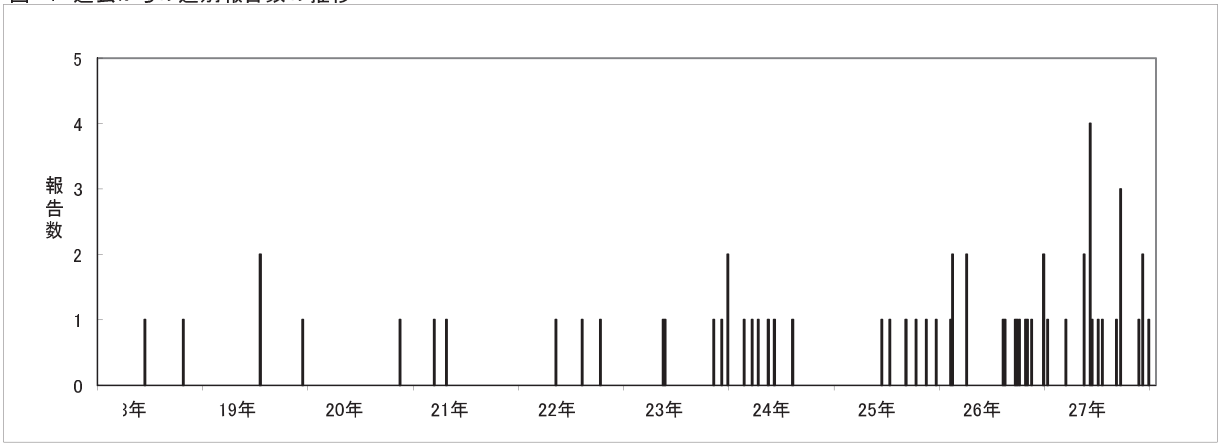


図 -2　過去からの届出数の推移

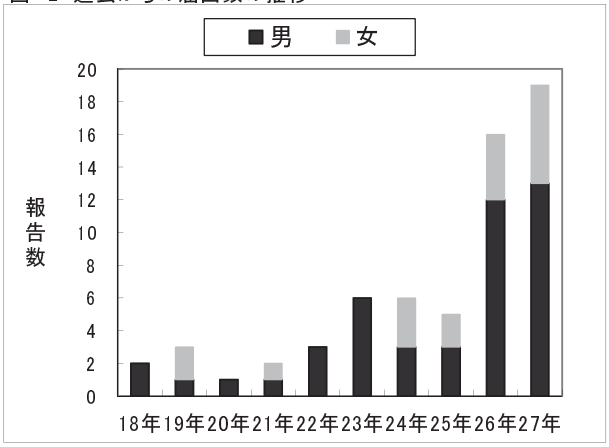


図 -5　週別届出数

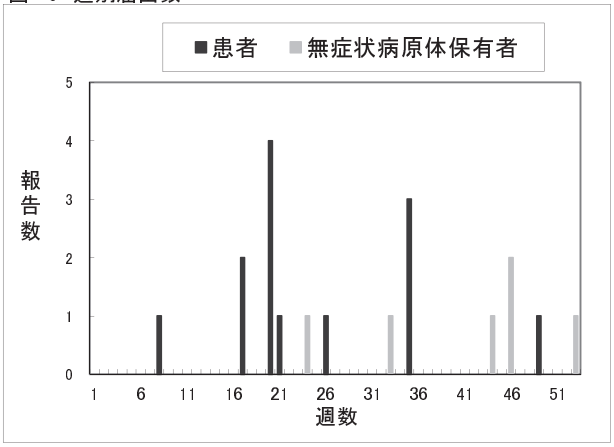


図 -3　年齢別届出数

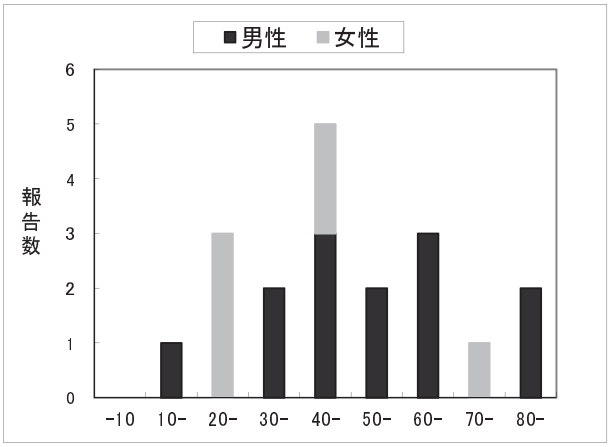


図 -6　年齢群別の届出数の推移（H28は第28週までの届出数）

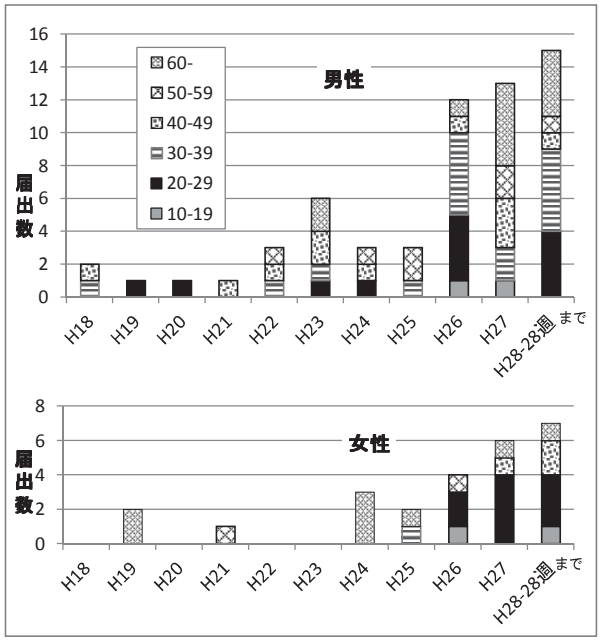
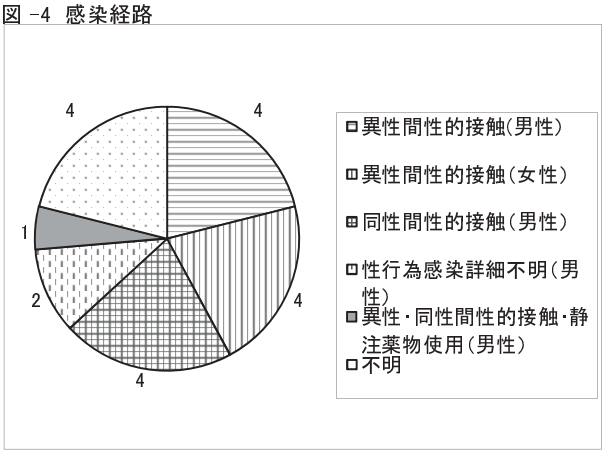


図 -4　感染経路



概要

感染地域（推定含む）
　県内　11例
　県外　 5例（国内不明含む）
　国外　 1例（タイ）
　不明　 2例

表1　全数把握対象疾患報告状況

	疾患名＼調査年	平成18年(2006年)		平成19年(2007年)		平成20年(2008年)		平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)	
		全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類	エボラ出血熱												
	クリミア・コンゴ出血熱												
	痘そう												
	南米出血熱												
	ペスト												
	マールブルグ病												
	ラッサ熱												
二類	急性灰白髄炎					2				2		1	
	結核			21,946	247	28,419	372	26,996	371	26,866	287	31,483	361
	ジフテリア												
	重症急性呼吸器症候群												
	中東呼吸器症候群												
	鳥インフルエンザ(H5N1)												
	鳥インフルエンザ(H7N9)												
三類	コレラ	37		13		45		16		11		12	
	細菌性赤痢	373	3	452	2	320		181	2	235	2	300	
	腸管出血性大腸菌感染症	3,819	29	4,617	50	4,322	38	3,889	50	4,134	53	3,940	24
	腸チフス	58	1	47		57	1	29		32	1	21	
	パラチフス	22	1	22	1	27		27		21		23	
四類	E型肝炎	46		56	2	43		56		66		61	
	ウエストナイル熱												
	A型肝炎	224	3	157	1	170	3	115	1	347	2	176	
	エキノコックス症	13		25		22		27		17		20	
	黄熱												
	オウム病	16		29		9		21	1	11		12	
	オムスク出血熱												
	回帰熱									1	1		
	キャサヌル森林病												
	Q熱	2		7		3		2		2		1	
	狂犬病	2											
	コクシジオイデス症	2		3		2		2		1		2	
	サル痘												
	重症熱性血小板減少症候群												
	腎症候性出血熱												
	西部ウマ脳炎												
	ダニ媒介脳炎												
	炭疽												
	チクングニア熱											10	
	つつが虫病	397		382		442		465		407	2	462	
	デング熱	50		89	1	104		93		244	4	113	
	東部ウマ脳炎												
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)												
	ニパウイルス感染症												
	日本紅斑熱	49		98		132		132		132		190	
	日本脳炎	7		10		3		3		4		9	
	ハンタウイルス肺症候群												
	Bウイルス病												
	鼻疽												
	ブルセラ症	4		1		4		2		2		2	
	ベネズエラウマ脳炎												
	ヘンドラウイルス感染症												
	発しんチフス												
	ボツリヌス症	2		3		2				1		6	
	マラリア	54		52		56		56		73		78	
	野兎病					5							
	ライム病	12		11		5		9		11		9	
	リッサウイルス感染症												
	リフトバレー熱												
	類鼻疽									4		3	
	レジオネラ症	434	3	668	3	893	5	717	4	751	1	818	9
	レプトスピラ症	24		35		42		16		22	1	26	
	ロッキー山紅斑熱												
五類	アメーバ赤痢	598	6	801	10	872	11	786	9	843	11	814	11
	ウイルス性肝炎 B型	188	6	199	2	179		178		174	1	200	
	ウイルス性肝炎 C型	37	2	34	1	53	2	40	1	39		36	
	ウイルス性肝炎 D型												
	ウイルス性肝炎 その他	4		4		9	1	5		7		14	
	ウイルス性肝炎 不明									1			
	ウイルス性肝炎 (再掲:合計)	229	8	237	3	241	3	223	1	221	1	250	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症												
	急性脳炎	93		228		190		526	1	242	1	258	
	クリプトスポリジウム症	15		6		10		17		16		8	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	140	1	157		152	2	142		172	3	138	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	78	2	95	1	113		103	4	122		197	1
	後天性免疫不全症候群	1,058	9	1,493	10	1,568	4	1,446	13	1,553	16	1,535	12
	ジアルジア症	76	3	53	3	76		70	1	77		65	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症												
	侵襲性髄膜炎菌感染症												
	侵襲性肺炎球菌感染症												
	水痘(入院例)												
	先天性風しん症候群							2				1	
	梅毒	505	2	719	3	839	1	691	2	621	3	827	6
	播種性クリプトコックス症												
	破傷風	108		89	1	123		113		106		118	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症												
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	69		84	1	80		116		120	1	73	
	風しん					303	2	147	2	87		378	1
	麻しん					11,015	12	732	3	447	3	439	2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症												
	髄膜炎菌性髄膜炎	9		17		10		10		7		12	
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)							12,654	305				

表1　全数把握対象疾患報告状況

	疾患名＼調査年	平成24年(2012年)		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		平成27年(2015年)	
		全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類	エボラ出血熱								
	クリミア・コンゴ出血熱								
	痘そう								
	南米出血熱								
	ペスト								
	マールブルグ病								
	ラッサ熱								
二類	急性灰白髄炎			1					
	結核	29,317	424	27,052	343	26,629	300	24,526	306
	ジフテリア								
	重症急性呼吸器症候群								
	中東呼吸器症候群								
	鳥インフルエンザ（H5N1）								
	鳥インフルエンザ（H7N9）								
三類	コレラ	3		4		5		7	
	細菌性赤痢	214	5	143	1	158		156	1
	腸管出血性大腸菌感染症	3,768	17	4,044	30	4,151	23	3,567	27
	腸チフス	36		65		53	2	37	1
	パラチフス	24		50		16		32	1
四類	E型肝炎	121		127		154		212	2
	ウエストナイル熱								
	A型肝炎	157		128		433	8	244	2
	エキノコックス症	17		20		28		25	
	黄熱								
	オウム病	8		6		8		5	
	オムスク出血熱								
	回帰熱	1		1		1		4	
	キャサヌル森林病								
	Q熱	1		6		1			
	狂犬病								
	コクシジオイデス症	2		4		2		3	
	サル痘								
	重症熱性血小板減少症候群			48		61		60	
	腎症候性出血熱								
	西部ウマ脳炎								
	ダニ媒介脳炎								
	炭疽								
	チクングニア熱	10		14	1	16	1	17	
	つつが虫病	436	1	344		320		419	
	デング熱	221	5	249	2	341	3	293	4
	東部ウマ脳炎								
	鳥インフルエンザ（H5N1を除く）								
	ニパウイルス感染症								
	日本紅斑熱	171		175		241	1	213	
	日本脳炎	2		9		2		2	1
	ハンタウイルス肺症候群								
	Bウイルス病								
	鼻疽								
	ブルセラ症			2		10		5	
	ベネズエラウマ脳炎								
	ヘンドラウイルス感染症								
	発しんチフス								
	ボツリヌス症	3				1		1	
	マラリア	72	1	47	2	60	1	41	2
	野兎病					1		2	
	ライム病	12		20	1	17		9	
	リッサウイルス感染症								
	リフトバレー熱								
	類鼻疽			4				1	
	レジオネラ症	899	8	1,124	12	1,248	11	1,592	8
	レプトスピラ症	30		29		48		33	
	ロッキー山紅斑熱								
五類	アメーバ赤痢	932	6	1,047	8	1,134	15	1,108	18
	ウイルス性肝炎 B型	186		236	2	188	1	206	2
	ウイルス性肝炎 C型	38	1	30		27		34	
	ウイルス性肝炎 D型								
	ウイルス性肝炎 その他	12		20		11		14	
	ウイルス性肝炎 不明								
	ウイルス性肝炎 （再掲：合計）	236	1	286	2	226	1	254	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症					314	5	1,680	28
	急性脳炎	371		369		459	3	511	4
	クリプトスポリジウム症	6		25		98		15	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	185	3	203	8	177		191	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	242	1	203	1	268	2	434	2
	後天性免疫不全症候群	1,438	11	1,586	8	1,538	14	1,431	14
	ジアルジア症	72		82	1	68		80	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			108		200	2	252	3
	侵襲性髄膜炎菌感染症			23		37		34	1
	侵襲性肺炎球菌感染症			1,001	9	1,825	20	2,402	21
	水痘（入院例）					143	5	314	6
	先天性風しん症候群	4		32		9			
	梅毒	875	6	1,228	6	1,661	16	2,697	19
	播種性クリプトコックス症					37		119	
	破傷風	118		128	2	126	1	120	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	91		55		56		66	1
	風しん	2,386	18	14,344	180	319	5	163	1
	麻しん	283		229		462	1	35	1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症					15		37	
	髄膜炎菌性髄膜炎	15	1	2					
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)								

ゼロ値は表示していない